

授業科目名	看護の統合と実践 I (序論)	担当教員	宮本眞巳
必修	開講年次：1 年前期	単位：1 単位	授業形態：講義 15 時間

【授業概要】

看護職は様々な医療現場の多職種チームの中で、どのような役割を担っているのかについて学び、さらに、看護職は他職種や患者・家族からどのような役割を期待され、それにどう応えているのか、看護職が担おうとする役割と期待される役割は一致するのかについて検討し、学生自身はどのような仕事をしたいのかについて、イメージ作りを図る。一方、看護職が自らの役割を適切に遂行していくには、どのような知識、技術、態度や視点を身に付ける必要があるのかについて理解を深め、さらには、人文・社会・自然科学領域の教養科目や医学・社会福祉学等の関連領域の科目の学習を通じて身に付いた素養を看護学の体得にどう生かすかについて考える。

【授業目的・目標】

1. 看護師が専門職として質の高い実践を担っていくためには、ミクロの視点（援助を必要とする人との間で省察に富むコミュニケーションの展開）及び、マクロの視点（個々の援助的な人間関係に、制度やシステム、社会情勢や臨床状況が及ぼす影響）から把握することが重要であることを学ぶ。
2. 看護師の多様な活動と多職種連携の実態にふれながら、看護職による臨床実践の現状とキャリア形成の道筋、並びにそれを支える看護基礎教育と生涯学習の概要について包括的に学ぶ。
3. 教養科目と看護専門科目、関連科目の受講を通して、社会的要因の健康問題への影響について学びながら、保健医療と看護についての包括的な視野を得る。

【履修条件】

特になし

【授業計画】

- [01] 看護職の活動する様々な現場／看護基礎教育に教養科目や関連科目はどうか
- [02] チーム医療における多職種連携の現状と課題
- [03] 看護師の専門教育と継続学習
- [04] 二人の看護理論家に学ぶ—ナイチンゲールとペプロウ—
- [05] 看護職に求められる役割と取りたい役割
- [06] 看護実践能力養成と看護基礎教育
- [07] 看護師のキャリアコース
- [08] まとめ—看護をどのように学んでいくか—

【教科書】

1. ナイチンゲール F. (小玉香津子訳) 看護覚え書—本当の看護とそうでない看護, 日本看護協会出版会

【参考書】

1. 三井さよ著(2004)ケアの社会学, 勁草書房
2. ショーン D. (佐藤学訳) 著 (2001) 専門家の知恵, ゆみる出版
3. キャラウェイ B. (星野敦子訳) 著 (2009) ペプロウの生涯, 医学書院
4. ペプロウ H. (稲田八重子他訳) 著 (1973) 人間関係の看護論, 医学書院
5. ベナー P. (井部俊子訳) 著 (2005) ベナー看護論—初心者から達人へ—新訳版, 医学書院

【評価方法・評価基準】

授業参加レフレクティブレポート：30%、課題レポート×2：70%

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業後半で用いる教科書「看護覚え書き」に目を通し、印象的な個所を抜き出しておくこと。

事後学習：講義を踏まえ、自分自身のこれからの継続教育について自分なりのビジョンを作る。

【教育目標（必須要素）との関連】

この科目は、教育目標の必須要素 I. 教養教育で培う普遍的基礎能力、II. 質の高いケアを実践するためのリーダーシップ能力、III. 根拠に基づいた看護実践能力、V. 多職種から成り立つ医療チームにおけるコミュニケーションとコラボレーション能力、VIII. 生涯にわたり継続して専門性を向上させる能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

授業参加リフレクティブレポートと課題レポートについて、授業中にフィードバックを行う。

【備考】

この科目は、これから学習する看護基礎教育の全体像を大づかみにすることによって、援助職としての生涯教育への動機づけを高めることを重要な目的としていることを理解して、授業に取り組んで欲しい。